

令和元年度

事業報告

社会福祉法人 芙蓉会

芙蓉保育園

芙蓉保育園

当保育園は、平成 22 年 4 月 1 日に事業開始しました。

第 2 種社会福祉事業 定員 30 人

〔1〕 事業方針(保育理念)

- ・子どもが安全で安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら心身ともに健やかに成長するよう、子ども一人一人の育ちを支えていく。
- ・子どもの育ちや子育てが、保護者の喜びとなるように支援していく。
- ・保育園の持つノウハウを活用し、地域の親子も支援していく。

● 保育方針(保育士が目指すもの)

- ・一人ひとりの発達を大切に、食事・睡眠・排泄・着脱など養護の機能を十分行き届かせ、情緒の安定を図る。
- ・遊びを通して基本的運動機能が獲得できるようにする。
- ・友だちへの関心が育つように保育士が仲立ちしていく。
- ・いろいろな経験を通して、ことばで表現する喜びが持てるようにする。
- ・保護者や地域の方々と連携し、子どもの育ちを支えていく。

● 保育目標

次世代を担う子供たちのために、くつろいだ雰囲気の中で情緒の安定を図り、様々な体験や人との関わりを通して、豊かな感性や創造性の芽生えを培い、心身共に健やかな成長を促す。

○友だちとなかよく遊べる子

○たくましく元気に遊べる子

○やさしく素直な子

● 保育園の役割

- 1、入園する子ども一人ひとりの人格を尊重し、豊かな環境の下、子どもの最善の利益を考慮し、子どもに最もふさわしい生活の場を保障していく。
- 2、保育士は保育に関する専門性を有し、家庭との緊密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育園における環境を通して、養護及び教育を一体的に行う。
- 3、保護者や地域社会に、保育園が行う保育の内容を適切に説明するよう努める。また、保育園を適切かつ円滑に利用できるよう情報を開示する。

- 4、保育園の役割及び機能が適切に発揮されるように倫理観に裏づけられた専門的知識、技術及び判断をもって子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対して子育てに関する指導を行う。
- 5、入園する子どもの個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情などに対し、その解決に努める。

● 職員の状況

区分	園長	主任保育士	保育士	合計
正規職員	1	1	6	8
臨時職員			2	2

● 園児の入園状況について

(喜多方も含む)

(初日の人数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	3	3	4	4	5	8	10	10	10	13	13	13
1歳児	8	8	8	8	8	9	9	9	9	8	8	8
2歳児	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11
3歳児	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	28	22	23	23	24	29	31	31	31	33	33	33

(広域入園の状況)

(初日の人数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児			1	1	2	2	3	3	3	5	5	5
1歳児												
2歳児	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3歳児												
合計	1	1	2	2	3	3	4	4	4	6	6	6

[2] 事業内容

< 保育時間 >

* 標準時間 7:30～18:30 (平日、土曜日)

* 短時間 8:00～4:00

< 延長保育 > (30分 100円)

* 標準時間 7:00～7:30、18:30～19:00

* 短時間 7:00～8:00 16:00～

< 対象園児 > 0歳児～3歳児

● 延長保育利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	9名	7名	7名	7名	7名	6名	7名	9名	4名	5名	5名	3名

◎ 保育方針に基づく年齢別年間保育目標

0歳児

- ・落ち着いた雰囲気の中で欲求を満たし、情緒の安定を図りながら、一人一人の豊かな個性を育み、信頼関係、愛着関係を育てる。
- ・個人差に留意しながら離乳の完了や歩行、発語への意欲を育む。
- ・保健的で安全な環境の中でのびのびと遊び、いろいろな体験を重ねて、感覚の発達を豊かにし、身の回りの物事への興味、関心が持てるようにする。

1歳児

- ・保健的で安全な環境を作り、一人ひとりの生活リズムを大切にして、快適に生活ができるようにする。
- ・ひとり遊びを十分に楽しみながら、保育士や友達に自分の思いを表現したり、関わって遊んだりする楽しさを知る。
- ・自然物や周りの物に興味を持ち、十分に体を動かし、歩行や探索を楽しむ。

2歳児

- ・保育士に見守られながら、基本的な生活習慣が身に付き、進んでしようとする。
- ・一人一人の思いや要求が十分受け止められ、安心して過ごす。
- ・保育士の仲立ちを通して、友だちとの関わりが増え一緒に行動したり、同じ遊びをしようとする。
- ・いろいろな遊びや経験を通して、言葉のやりとりや表現する楽しさを味わう。

3 歳児

- ・身の回りのことや生活習慣が身に付く。
- ・様々な動きを体験しながら、全身を使って遊ぶ楽しさを味わう。
- ・自分の興味・関心、思いを自分なりの方法で表現する。
- ・遊びや生活の中で、簡単な決まりや約束があることを知り、守ろうとする。

◎ 健康・安全について

- ・一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、欲求を満たし情緒の安定を図る。
- ・室内の温度や湿度、換気に気をつけ快適に過ごせるようにする。
- ・視診や触診を行い子どもの健康状態を把握する。
- ・室内の玩具の消毒を行い感染症予防に努める。
- ・睡眠中の顔色・呼吸に注意し、睡眠チェックしながらSIDSの予防に努める。
- ・毎月の事故チェックリストで、職員の共通認識を図り保育中の事故防止に努める。
- ・薬がある場合は、与薬依頼書に薬剤情報提供書を添付し一回分の薬のみ持参してもらう。
- ・感染症にかかった時には、登園許可証に医師からサインをもらい登園する。
- ・毎月身体測定を実施する。
- ・年2回園の嘱託医による内科・歯科の検診を実施する。

◎ 食育について

★ ねらい

- ・楽しい雰囲気の中で友達と一緒に食事をしよう。
- ・保育園給食の味に慣れよう。
- ・いろいろな食材に興味をもち、良く噛んで食べよう。
- ・好き嫌いなく何でも食べよう。
- ・スプーンやフォークを使って自分で食べよう。

★ 給食 (メフォスに委託している)

乳幼児の健全な成長を促すため、質量及び栄養のバランスのとれた給食を実施する。

- ・新鮮で安全な食材を使用する。
- ・食事の良い習慣を身につける。
- ・専門医師による診断結果をもとに、アレルギーの除去食を提供する。
(全園児・・・卵は使用しない)
- ・離乳食は家庭と連携しながら、月齢に合わせた切り方や硬さ・味付け等を食べ

やすく工夫し、一人ひとりに合わせて進めていく。

- ・ミルクは家庭で飲ませているミルクを使用する。
- ・0～2歳児は完全給食を実施する。（午前・午後のおやつ）
- ・3歳児も別途徴収し主食・午前のおやつも実施する。
- ・満1歳以上児は、毎月一回お弁当の日を実施する。
- ・弁当の日月1回実施（第3木曜日）
- ・保育参観に給食試食会を実施する。
- ・バイキング給食を実施する。

※コロナウイルス感染拡大防止の為3月のバイキング給食を中止した。

◎ 地域交流・子育て支援

- ・地域の行事などに参加し交流を深める。
- ・保健センターや社会福祉協議会などの関係機関と連携をとっていく。
- ・北塩原に居住・在職し、子育てしている親子が対象の「親子ふれあい文庫」を実施する。
- ・親同士・子ども同士の交流や子育ての情報交換の場、育児支援事業「親子ふれあい広場」を実施する。保健センターと連携し、毎月身体測定を行う。
- ・乳幼児健康診査への派遣。

親子遊びの提供及び保護者の育児相談等乳幼児健康診査終了後のカンファレンスへの参加

年6回（4月・5月・8月・9月・12月・2月）

- ・保育園自主事業「うさちゃん広場」を実施する。
- ・公民館事業（幼児教育支援事業）と連携する。
 - ・6月22日（土） 保育参観
「親子で楽しむ音楽会」ひろの てつやさんご夫婦
- ・老人施設（小野デイサービスセンター・生活支援センターシャルムハウス・グループホームラポール）と交流する。

* うさちゃん広場・親子ふれあい広場実施状況

月	日	事業	参加人数
4	9	うさちゃん広場	
	16	親子ふれあい広場	2組(4名)
	23	うさちゃん広場	
5	15	うさちゃん広場	
	28	うさちゃん広場	

6	11	うさちゃん広場	
	22	親子ふれあい広場 幼児教育支援事業 「親子で楽しむ音楽会」	1組(3名)
	25	うさちゃん広場	1組(2名)
7	9	うさちゃん広場	1組(2名)
	23	うさちゃん広場	
8	6	うさちゃん広場	1組(2名)
	20	親子ふれあい広場	3組(7名)
	27	うさちゃん広場	1組(3名)
9	10	うさちゃん広場	2組(3名)
	17	うさちゃん広場	1組(2名)
	28	親子ふれあい広場「親子レクリエーション」	
10	8	うさちゃん広場	
	15	親子ふれあい広場	
	29	うさちゃん広場	
11	5	うさちゃん広場	
	12	うさちゃん広場	
12	10	うさちゃん広場	
	17	うさちゃん広場	1組(3名)
	25	親子ふれあい広場(クリスマス会)	
1	7	うさちゃん広場	
	21	うさちゃん広場	
2	3	親子ふれあい広場(豆まき会)	
	18	うさちゃん広場	
	25	うさちゃん広場	1組(3名)
3	10	うさちゃん広場	コロナウイルス感染
	24	うさちゃん広場	拡大防止の為中止

◎ 防災対策

- ・避難訓練計画を基に月1回、避難・消火・通報訓練を実施し、火災や地震等の災害を想定し、その状況に応じた誘導の仕方を訓練する。
- ・不審者侵入を年2回想定し迅速な対応を訓練する。
- ・年2回横断歩道の渡り方や道路の歩き方など、交通ルールを紙芝居やエプロンシ

アターで分かりやすく指導する。

- ・全職員対象に救命講習を受講する。
- ・非常食(水、カンパン)を備蓄し、非常時に備えて置く。
- ・各保育室に非常用持ち出し袋(オムツ、カンパン、水、ゴム手袋、ティッシュ、ウエットティッシュ、懐中電灯、ミルク、哺乳ビン、消毒用アルコール等)を設置し、避難訓練の際は必ず持ち出す。

◎ 職員資質向上

共に学び合う環境を整え、保育園の活性化を図り職員一人一人の資質の向上、保育の質及び専門性の向上につなげる。

*外部研修会

年 月 日	研 修 会 内 容
6.21	令和元年度福島県保育協議会会津支部研修会 「子どもに学び、子どもと育つ～私たちがめざす幼児教育とは～」
7.6	福島県委託事業 令和元年度福島県保育所等安全対策推進研修 1事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン解説 2再発防止に向けた要因分析(演習中心) 3事故防止につながる危険予知トレーニングKYT(演習中心) 4保育所等におけるアレルギー対応・感染症対策
7.13	令和元年度第1回会津若松市保育士会研修会 「乳幼児期の食育と発育について」
7.16(郡山) 17(郡山) 28(会津) 29(会津)	令和元年度福島県保育士等キャリアアップ研修(幼児教育) ・幼児教育の意義・幼児教育の環境 ・幼児の発達に応じた保育内容 ・幼児教育の指導計画・記録及び評価 ・小学校との接続
7.30(福島) 31(福島) 8.6(福島) 12.9(郡山) 10(郡山) 11(郡山)	令和元年度福島県保育士等キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策) ・保健計画の作成と活用 ・事故防止及び健康安全管理 ・保育所における感染症対策ガイドライン ・保育の現場において血液を介して感染する病気を予防するためのガイドライン

	・教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
8.9	令和元年度子どものむし歯緊急対策研修会
8.25(会津) 26(会津) 9.23(郡山) 24(郡山) 11.12(福島) 23(福島)	令和元年度福島県保育士等キャリアアップ研修(障がい児保育) ・障がいの理解 ・障がい保育の環境 ・障がい児の発達の援助 ・家庭及び関係機関との連携 ・障がい児保育の指導計画、記録及び評価
9.3(郡山) 4(郡山) 10(郡山) 9.20(会津) 28(会津) 29(会津)	令和元年度福島県保育士等キャリアアップ研修(食育アレルギー対応) ・栄養に関する基礎知識 ・食育計画の作成と活用 ・アレルギー疾患の理解 ・保育所における食事の提供ガイドライン ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
10.1(郡山) 2(郡山) 7(会津) 8(会津)	令和元年度福島県保育士等キャリアアップ研修会(乳児保育) ・乳児保育の意義 ・乳児保育の環境 ・乳児への適切な関わり ・乳児の発達に応じた保育内容 ・乳児保育の指導計画、記録及び評価
10.21(会津) 10.22(会津) 10.23(会津)	令和元年度福島県保育士等キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策)
10.30(会津) 31(会津) 11.1(郡山) 2(郡山)	令和元年度福島県保育士等キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援) ・保護者支援・子育て支援の意義 ・保護者に対する相談援助 ・地域における子育て支援 ・虐待予防 ・関係機関との連携、地域資源の活用
11.9	令和元年度第2回会津若松市保育士会研修会 「本当の知的教育」
11.10(会津) 11(会津)	令和元年度福島県保育士等キャリアアップ研修(マネジメント) ・マネジメントの理解 ・リーダーシップ ・組織目標の設定

	・人材育成 ・働きやすい環境づくり
12.14	令和元年度福島県会津保健事務所 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 「障がいや病気を持つ子きょうだい支援について」
2.8	令和元第3回会津若松市保育士会研修会 愛着障害と発達障害 ～まず最初にやるべきこと～

*園内研修

	研 修 会 内 容
4・23	園全体・クラスからの課題・問題提起の検討会
5・28	園全体・クラスからの課題・問題提起の検討会
6・22	保育士だからできる虐待防止 「具体的な子どものサイン」「保護者の実生活に合った対応」
7・19	気になる子への支援（子どもに対する支援）
8・29	保育士だからできる虐待防止 「虐待防止に向けた取組み～保育現場にできること～」
9・28	救命講習会
10・29	気になる子への支援
11・21	園全体・クラスからの課題・問題提起改善策について
12・17	離乳食の進め方・伝え方について
1・16	離乳食の進め方・伝え方について
2月	自己評価
3月	自己評価

年間行事実施状況

月	日	実 施 行 事
4	1	入園式
	5	歯科検診
	10	内科検診
5	24	食育指導
	31	交通安全教室
6	18	総合避難訓練
	22	保育参観・幼児教育支援事業「親子で楽しむ音楽会」 給食試食会
7	1	プール開き
	5	七夕会
9	20	グループホーム慰問（2歳児）
	26	裏磐梯幼稚園との交流会
	28	親子レクリエーション
10	2	グループホームとの交流会（さつま芋掘り）
	3	さくら幼稚園との交流会
	9	内科検診
	15～ 11月2日	全クラス個別懇談会
	16	歯科検診
	18	交通安全教室（村駐在さんによる指導）
	25	食育指導
11	29	老人施設との交流会 （保育園にてデイサービス・シャルムハウス・グループ ホームの皆さんにお遊戯を披露）
12	7	お遊戯会
	10・13	小野デイサービス慰問（2・3歳児）
	25	クリスマス会・バイキング給食
1	10	団子さし

		(シャルムハウスの皆さんと交流)
2	3	節分
3	3	ひなまつり会
	11	在園児説明会・クラス懇談会 (新型コロナウイルス感染予防の為中止)
	27	お別れ会

令和元年度芙蓉保育園自己評価

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。

このことを踏まえ、芙蓉保育園は保育の質の向上を図る為に、保育士の自己評価を年度末に年一回行っています。この結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるように努力していきます。

◎ 教育及び保育の配慮

- ・発達段階に応じた保育を心がけたので、その子が「やれた」ことに自信を持たせることができた。
- ・様々な場面で子どものやりたい気持ちを否定しないような言葉がけを心掛けた。また、やりたい事に慎重になっている子には、言葉のかけ方で安心して行動に移すきっかけになることを実感した。
- ・スキンシップを多くとり、一人ひとりとゆったりとした気持ちで、関わることを心掛けた。
- ・子どもの「できない」ことに対し、子どもが分かりやすい言葉で知らせたり、絵カードで援助したりして、自信や意欲につなげるように心掛けた。
- ・保育士の気持ち・時間等に余裕がないと、急かすような言動になってしまうことが多かった。
- ・子ども達の心の成長に伴い、友達との関わりがうまくできない子はトラブルが多く、制止させる言葉が先に出てしまい一人一人の思いを汲み取ることができなかった。

◎ 環境を通して行う保育

- ・0歳児保育室の配置を「遊びのコーナー」「午睡のコーナー」と分けたことで、個々の生活リズムを整えることができた。また、子どもや保育士の動きが円滑になり、落ち着いて過ごせるようになった。
- ・子どもの発達に合わせたいろいろな素材・玩具を準備した。特に指先を使った遊びでは、集中して遊ぶ子が個々に楽しめるようにそれぞれの空間を設定し、満足して

遊べるようにした。また、保育士が考えている以上に子どもの発想に驚く場面が多かった。

- ・ 戸外遊びや散歩などを通して、四季の移り変わりを体感させることができた。また、虫・植物等を通して、保育士や友だちとの言葉のやりとりが多くなった。
- ・ 暖冬で雪が少なかったため、会津の冬ならではの雪遊びができなかった。
- ・ 野菜の栽培を体験する事で、苦手な野菜にも関心を向けられた。
- ・ 子どもが主体的に関わって遊べる環境作りをしていきたい。

◎ 職員の資質向上

- ・ キャリアアップ研修会で知識を深める事ができた。
- ・ 園内研修や外部研修で得た知識を実際に生かせるようにしたが、計画的に進めることができなかった。
- ・ 研修で得た情報を他の職員とうまく共有できないことが多かったので、話し合う機会を持ちながら自分の保育を見直したり、指導計画に活かせるようにしていきたい。

◎ 保護者に対する支援

- ・ 必要に応じて個別懇談の機会を作り、外部の関係機関と連携を図りながら保護者支援に努めてきた。
- ・ 送迎時や連絡帳でその日の子どもの様子を伝え、家庭での生活スタイルや育児の思い・悩みを聞きながら、共感したり必要に応じてアドバイスしたりすることを心掛けた。
- ・ 保護者が悩みや意見を話しやすい環境を作ったり、会話の中でいつもと違う様子を感じ取ることができるようにし、支援へと繋がるようにしていきたい。
- ・ 園側の願いや思いが伝わらないことがあり、保護者への伝え方の工夫が必要だと感じた。

※子どもの様子や品物等、実際に見てもらいながら伝える。

※保護者の生活経験なども聞きながら援助する。